



読解力向上への道標

令和4年1月14日発行
第6号
福島市教育委員会
教育研修課

社会科授業改善のポイント

係り受け解析

- 文章資料を読み取る際には、主語・述語、修飾語・被修飾語に着目させ、教師が意図的に「何（誰）がどうした」という基本構造を把握するための問い返しや、一つ一つの言葉（キーワード）に注目できる問い返しを行うことで社会的事象を正確に捉えることができるようにする。

照応解決

- 社会科の教科書には、主語が省略されている文章（ゼロ照応）が多いため、教師が適宜、主語を確認するための発問を行い、省略された名詞句を正しく補完する。

例 ○○が多い地域はどこですか？
○○を行ったのはだれですか？

同義文判定

- 社会的事象を正確に捉えるために、教科書に書かれている文章を同義性を損なわずに言い換えさせたり、要約させたりする活動を取り入れる。

例 6世紀になると、朝鮮半島では、新羅や百済が勢力を強め、特に新羅は、大和政権と深い交流のあった伽耶地域の国々を滅ぼしました。

言い換えをした文→新羅に滅ぼされた伽耶地域の国々は、大和政権と深い交流があった。

推論

- 既習事項や前単元の学習内容と教科書、資料集、インターネット等を活用して新たに調べた事柄などを関連付けながら考えることができる課題設定や発問を工夫することにより、社会的事象に対する自分の考えを深めることができるようにする。

イメージ同定

- 調べ学習において、教科書や資料集の文章をそのまま写してまとめさせるのではなく、次のような活動を取り入れる。
 - ①絵や図、写真、グラフから読み取れることを文章で書かせる。
 - ②絵や図、写真、グラフと教科書の文章を関連付けて考えさせまとめさせる。
 - ③年表を活用して因果関係を捉えさせる。
 - ④年代の違う写真資料を比較させ変化をまとめさせる。
 - ⑤映像資料等を提示し、視覚的なイメージをもたせ理解を深める。

具体例同定

- 児童生徒にとって認識しづらい語句が含まれている文章は、その語句を使い別な文章を作る活動を適宜取り入れる。（具体例の生成）

【実践例】 小学校 第3学年 照応解決 同義文判定 イメージ同定

単元名 火事からくらしを守る（3／7時間）

本時の目標 資料の読み取りを通して、火事に素早く対応できる通信指令室の役割や、関係機関との協力体制について理解することができる。

照応解決 ○ 重要語句（ここでは、通信指令室）の教科書の説明について、主語・述語を確認する発問を行うことで、通信指令室の働きを正確に捉えることができるようにする。

ことば
通信指令室

119番の電話がつながるところが消防本部の通信指令室です。火事なのか救急なのか、火事の場所などをたしかめて、消防しよに出勤を指令したり、ほかの関係するところにもれんらくを入れたりします。

【教科書の説明】

<重要語句を正確に捉えるポイント>

- ① 重要語句を全員で音読させる。
- ② 救急・出勤・指令など、親密度の低い言葉の意味を確認する。
- ③ 「火事の場所などを確かめるのは、だれですか」と発問し、主語を確認する。
- ④ 重要語句の意味について、自分の言葉で文章にまとめさせる。

同義文判定 ○ 教科書に書かれている文章の同義性を損なわずに、複数の文章に再構成させることで、理解を深めることができるようにする。

<ワークシートの例>

() から言葉をえらんで、() の中に書いてみよう。

119番の電話がつながるところが()です。通信指令室は、電話をうけると()なのか()なのかをかくにんしたり、火事の()などをかくにんしたりします。通信指令室は、()やほかの関係するところに()を入れます。

(場所:通信指令室:れんらく:きゅう急:消防しよ:火事)

イメージ同定 ○ 吹き出しの文章と図を関連付けて考えることができるワークシートを作成し、通信指令室と各関係機関との連携について記述させ、学びを深めることができるようにする。

T: 通信指令室から、どこに連絡を入れていますか。

C: 消防署や病院など、いろんな所に連絡しています。(矢印に着目)

T: 消防署にはどんな連絡を入れていますか。

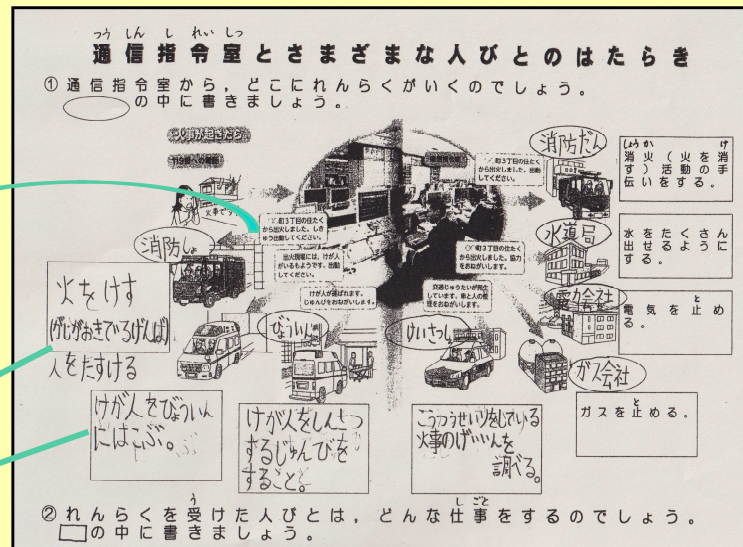
C: 〇〇町3丁目の住宅から出火しました。至急出勤して下さい。

T: 通信指令室から、連絡が入った消防署はどんなことをするのか、四角の中に書いてみよう。

C: 火を消したり、人を助けたりします。

C: 火事の現場に救急車を出勤させ、げが人を病院に運びます。

C: 救急車って、消防署から出るんだね。病院の人が、げが人を運ぶんじゃないんだね。



【実践例】 中学校 第1学年 推論 イメージ同定

単元名 古代国家の歩みと東アジア（1／7時間）

本時の目標 十七条の憲法や年表から当時の世の中の様子や聖徳太子の政治について調べ、話し合いを通して、聖徳太子がめざした国づくりについて自分の考えをまとめることができる。

推論 ○ 政治改革の目的を教師が説明するのではなく、生徒が小学校の既習事項をもとに、教科書や年表を活用して調べたことを関連付けながら、自分の言葉でまとめることができるように課題設定と発問を工夫する。

課題 聖徳太子の政治改革の目的を東アジアとの関わりをふまえながら考えよう



なぜ、聖徳太子は政治改革を行ったのかな？
小学校での学習を思い出してみよう。

隋の進んだ制度や文化を取り入れて、天皇中心の政治をつくらうとしたから。



なぜ、天皇中心の国づくりを進める必要があったのかな？

蘇我氏などの豪族が土地や人々を支配し争いを繰り返していたから、国を一つにまとめる必要が...



どうして国をまとめる必要があったの？

中国との対等な立場を築くため？
朝鮮と戦うために...？



【本時の振り返り<生徒のワークシートより>】

- ・ 中国から進んだ制度や文化を積極的に取り入れ、大王（天皇）中心の国づくりを進め、国家の仕組みを整えようとした。
- ・ 仏教の力により人々の心と国家を一つにまとめ、争いをなくそうとした。
- ・ 中国と敵対関係にならないようにしながらも、対等な力関係を築こうとした。

イメージ同定

- 「大和政権」や「律令国家」など、生徒がつかずくと予想される語句は、教科書や資料集の文章で確認するだけでなく、映像資料を提示し理解を深めさせる。
- 東アジアの動きと聖徳太子の政治を関連付けた年表を作成し提示することで、東アジアの動きと聖徳太子の政治の因果関係に焦点を絞って考えさせる。
- 年表等の資料から読み取った内容を小集団で話し合い、自分の考えを他者の考えと比較し、吟味させることで学びを深める。
- 本時の課題だけでなく、単元を貫く課題「なぜ律令国家が成立し、どのように変化していったのだろうか。」に立ち戻って学習を振り返り、自分の考えを端的にまとめさせる。